

# 島根の地域医療

第63号

2018/1/15

SHIMANE  
AKAHIGE  
BANK



発行者 島根県健康福祉部  
医療政策課医師確保対策室

## 今回の紙面

- ◆年頭のごあいさつ
- ◆地域医療最前線 NO.68：西村医院 院長 西村昌幸
- ◆看護師さんのページ NO.48：松江市立病院 がん化学療法看護認定看護師 山田恵子
- ◆研修医のページ NO.51：浜田医療センター 研修医 山口まどか
- ◆石見地域医療トップセミナー
- ◆赤ひげバンク地域医療視察ツアー



## 年頭のごあいさつ

島根県健康福祉部医療政策課  
医師確保対策室長

児玉 信広

新年、あけましておめでとうございませう。旧年中は本県の医療行政の推進にあたり格別なる御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本年も変わりがせず、どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、島根県では毎年10月に勤務医師実態調査を実施しており、昨年末にその結果を公表いたしました。県内病院・公立診療所における初期研修医を除く「常勤医師数」は1,138名で26名の増加となりました。また、「充足率」もプラス1.5%の77.0%で3年ぶりに増加に転じました。圏域別でも、ほとんどの圏域で常勤医師数が増加し、充足率も改善しました。多くの先生方に島根の医療を懸命に支えていただいていることに改めて感謝するところであります。同時に、長らく続く医師不足の中で、地域の医師の年齢が高くなるなど、地域の医療提供体制は依然として厳しい状況にあると考えております。

こうした中で、現在、島根県で



は「島根県保健医療計画」の改定作業を進めています。関係者の皆様のご意見もいただきながら、今後6年間の基本的な保健医療施策をとりまとめるものであります。この中で医師の養成・確保については、県の無料職業紹介所（赤ひげバンク）等を通じた「現役医師の確保」や、医学生奨学金・研修医資金の貸与、島根大学地域医療支援学講座等による医学生への支援、しまね地域医療支援センターによる地域枠出身・奨学金等貸与医師へのキャリア形成支援などの「地域医療を担う医師の養成」、代診医派遣や広域での救急患者搬送等の取組みを着実に推進することとしていきます。とりわけ、県の奨学金については、平成18年度に島根大学医学部地域枠の創設に合わせて20名枠に拡大（現在32名枠）しました。そうした地域枠出身・奨学金貸与医師は年々着実に増加し、地域で勤務する医師も徐々に増加してきています。

人口減社会に向かって医療費の効率化を求める国の動きは足早に進む一方で、国の医師偏在対策についての検討も行われています。医師偏在の指標化や、各都道府県による医師確保計画の策定、医師の地域勤務の評価などが議論されており、こうした動きにも今後適切に対応していく必要があると考えて

えています。

今後とも、関係者の皆様方の御意見をいただきながら医師の養成・確保にかかる様々な事業に取り組んでまいりたいと考えておりますので、変わらぬ御支援、御協力のほどよろしくお願ひいたします。

西村医院

院長 西村 昌幸

地域医療  
最前線

No.68



私は1943年生まれで、島根県東部にある雲南市の南端の過疎地で診療所を2ヶ所開業しています。

雲南市は人口4万人弱で高齢化率37%ですが、私の診療圏は2地域合

わけて人口約1,000人、高齢化率45・3%です。

平成4年秋、東京から当地に来ました。それまで横浜で、同級生3人でグループ診療所を開いて8年経過していました。妻の父が急死したため、地域の要請が強いことから、平成4年秋から養父の医院を継承しました。都会から地方へ移ってどんな医療をするのか考えました。まず健康についての知識を住民に持つてもらうこと、私がどんな医療を提供できるかなどの内容をミニコミ紙(年4回発行)で伝えることにしました。

平成18年、医学生の地域医療実習が始まりました。私も協力医療機関として手を挙げ、医学生に、大学、大病院の医療と地域医療の違いを研修するお手伝いをしてきました。彼等が初めての体験で、何らかの影響



を受けたことを感想文などで知り、地域医療へ繋がる一助となったと感じております。

## 看護師さんのページ No.48



松江市立病院  
がん化学療法看護  
認定看護師  
山田 恵子

私は、松江市立病院がんセンター外来化学療法室でがん化学療法看護認定看護師として勤務しています。当院では平成29年3月にがんセンターを開設し、「その人が地域や社会でその人らしく安心して生活できるような支援する」を掲げて、がん診療に取り組んでいます。

近年、2人に1人ががんになるといわれますが、誰もが自分がかんからは逃れたいと思うと思います。ある日突然がんと診断され、患者さんやご家族はそれまでの毎日を失ったような気持ちや状況に陥り、深く悩み苦しみながらも少しずつ受け止めて、治療を選択する日々が始まっていきます。日々、抗がん剤治療を受ける患者さんやご家族を通して、その方々の語りから生き方、考え方、病気と向き合う姿を学ばせていただいています。人それぞれ全く違う環境、価値観やライフイベントを持ちながら、生活や治療に前向きに、時

には苦痛を感じながらもがんと闘っておられます。それぞれの方がさまざまな形の闘う力を持っていただけることを実感しています。がんと診断された時から、患者さんの気持ちや体調、がんになる前に出来ていたことが出来なくなったことはないかなどをお聞きし、苦痛を和らげることや優先に関わっています。身体的、精神的、社会的苦痛を和らげることが日常生活や治療を続けるうえで大変重要だと考えています。いつも穏やかでは過ごせない、揺れる思いを必ずお聞きし、一緒に考えることが心がけています。

また、がん患者さんの心理社会的支援は、多くの職種のチームワーク



が成果を上げるといふ特徴があります。院内では、主治医や外来病棟看護師、薬剤師、管理栄養士、がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、乳がん看護認定看護師、各種ケアチーム(緩和ケア、リエゾン、スキンケア、リハビリテーション、口腔ケア、リンパ浮腫)、がん相談支援センターと協働し調整を行い、治療を支える体制を整えています。新たな外来化学療法室は20床(個室2床含む)を有し、治療環境を整えプライバシーに配慮しています。アメニティとしてTV・DVD、ソファ、ロッカー、パウダールームも設けています。実践の場では安全確実な投与管理を実施し、副作用対策やタイムリーな支援を提供できるよう努めています。今後も認定看護師として、患者さんの一番身近な存在である看護師として、がん患者さんの精神的変調や心理社会的問題に早期に気づき対処できるスキルを磨き、アプローチをしていきたいと日々思っています。





浜田医療センター  
研修医  
山口 まどか

厳しい寒さが身にしみる季節となってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。研修医1年目の山口まどかと申します。よろしくお願いたします。

はじめに、私は兵庫県姫路市出身で高校卒業までは姫路市に住んでいました。その後島根大学に入学し、大学生生活6年間を出雲市で過ごしました。大学卒業後は縁あってこの浜田医療センターで勤務させていただけに何度も訪れたことがあります。当時から山あり海ありの自然に恵まれた美しい土地という印象でしたが、住んでみると気候もよく、人々の温かさを感じられる土地で、ますます好きになりました。社会にでて初めて住んだ土地が浜田でよかったですと感じております。

4月からの半年間を振り返ってみると、反省と喜びの連続でした。初めてのころは戸惑いばかりで手も足もでない状態でした。今は少しずつ環境に慣れ、考えられるようになってきて、皆様の笑顔が見られた時にはやりがいと喜びを感じます。

上級医はいつでも丁寧に指導してくださり、研修医は勉強する機会をいただいています。また看護師や薬剤師をはじめとするスタッフの皆様も多方面で私たちを支えてくださいます。他職種と関わることで今の自分に足りていないこと、思いつかなかったことに気付く機会となり、日々感謝しています。

働き始めて実感することは、医師という職業は、知識や技術はもちろんのこと責任感、判断力、思いやり等が求められるということです。今はまだ研修医であり知らないことや分からないことばかりです。難しい場面では不安や焦りを感じることもあります。少しでも皆様の笑顔がみられるように日々勉強していきたいと思っております。

現在、浜田医療センターは研修医が9人所属しており、日々研鑽を積んでいます。いつでも相談に乗ってくださる研修医2年目の先輩方や、ライバルとして、また仲間として助け合える同期に恵まれ、充実した研修ができています。お互いが学んだことを共有し、全員でよい医師になることを目指しています。初期研修ではすべての診療科を選択できるわけではなく、また一つの診療科で1〜2か月しか研修できません。短期間ではありますが、各診療科で学ぶことのできる技術、知識を最大限に学んでいきたいと思えます。また各診療科で出会った患者さんやご家族

が少しでも笑顔になれるように努力していきます。地域の皆様、病院内スタッフの方々、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、拙い文章にお付き合いいただきありがとうございます。寒い日が続きますが、くれぐれも体調を崩されせんよう、皆様のご健康を心からお祈り申し上げます。

## 石見地域医療 トップセミナー

11月8日(水)、浜田市の浜田ワシントンホテルプラザにおいて、「石見地域医療トップセミナー」2025年に向けて島根県西部の地域医療を



ともに考える」を開催しました。

これは島根県と県西部の3保健所の主催により、石見地域で喫緊の課題となっている医師確保や地域包括ケアシステムの構築について、医療・介護・行政等の関係者が一緒に考える機会として開催されました。

まず、厚生労働省医政局地域医療計画課の伴正海専門官から「医療提供体制に関する政策の動向」医師確保から地域医療構想・地域包括ケアまで」と題して講演がありました。団塊の世代がすべて後期高齢者となる2025年に向けて、「病院完結型医療」から「地域完結型医療」へのシフトが求められており、目指すべき最上位の概念は地域の実情に応じた地域包括ケアシステムの構築であると話されました。その手段とし

て地域医療構想が位置付けられており、都道府県を主体として地域医療を充実させていくことの重要性を強調されました。医師の不足や偏在についても、都道府県の意見が反映できるような制度を改める方向で国では議論が進んでいることを紹介されました。

続いて、益田市の山本浩章市長が「益田の医療を守る取り組みとまちづくり」と題して講演されました。高齢化が進む中、市内20地区すべてで住民が主体となって健康づくりに取り組んでおり、「健康ますだ市21推進協議会」を基盤とした、地域に根ざした活動が展開されていることを紹介されました。また、市内の医師不足を受けて市民有志で発足した「益田の医療を守る市民の会」の取り組みや、益田市地域医療対策室によるサポート体制についても紹介された上で、病院と医師会の連携と役割分担により、あたかも一つの総合病院となるような医療提供体制づくりを進めてきたと述べられました。

来場者との意見交換では、医師不足・偏在対策として厚生労働省で行われている議論の状況や、益田市において地域ぐるみの健康づくりをどのように進めてきたかなど、活発な質疑応答がなされ、参加された約100人の関係者の方々と一緒に、これからの石見地域の地域医療を考える機会にすることができました。

【県央保健所 陶山】

## 地域医療視察ツアー

問い合わせ・登録

**お気軽に問い合わせください。  
ぜひ、赤ひげバンクにもご登録ください。**

出張面談

**全国どこへでも専任医師が面談に伺います。  
勤務希望等を詳しくお聞きし、医療機関の紹介や生活全般の相談に応じます。**

視察ツアー

**面談を経て、視察をご希望の場合は個別に承ります。  
院内や住居などの見学、生活環境をご案内いたします。**

### 視察ツアーの事例紹介

#### ①隠岐の島町国保診療所→②公立邑智病院

##### 1日目

午前	ご出発 飛行機で隠岐空港へ 隠岐の島町国民健康保険診療所を視察 (都万、那久出張所、五箇)
午後	隠岐の島町役場を訪問 【宿泊】隠岐の島町内

##### 2日目

午前	飛行機で出雲空港へ
午後	邑智病院(邑南町)を視察 【宿泊】邑南町内

##### 3日目

午前	お帰り
----	-----



公立邑智病院の  
医師住宅も見学！

## 島根の医療機関で働いてくださる方を募集しています！

友人・知人に島根県での勤務を希望される医師、看護職員、医学生、看護学生、薬剤師がおられましたら、是非ご紹介ください。

赤ひげバンクにご登録いただいた方には、医療機関の情報等を提供し、U・Iターンを支援します。

赤ひげバンクの登録者の方で、住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

赤ひげ先生  
インタビュー  
MediGate  
で公開中！



医師募集  
キャラクター  
赤ひげ先生

**SHIMANE  
AKAHIGE  
BANK**

### 島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室

〒690-8501 松江市殿町1番地  
TEL 0852-22-5693 FAX 0852-22-6040  
E-Mail iryou@pref.shimane.lg.jp  
HP: <http://www.pref.shimane.lg.jp/medical/kenko/iryu/ishikakuhotaisaku/>



MediGate 島根県 検索

